

研究開発とイノベーションを次々に巻き起こすイノベーション・エコシステム。つくばを舞台とするその取り組みが本格的に始まっているから、この3月で1年を迎える。研究成果の社会実装、社会に必要とされる研究に取り組む人材の育成に向け、垣根を越えた組織間連携の成果が徐々に現れている。

つくばの新たな挑戦

12

イノベーションエコシステムの構築

始動から1年、成果は

イノベーション推進本部総括企画主幹は、学術領域や研究分野の壁を越えたこの取り組みについて「2機関が連携することによって、つくばにとって転機になる」と語る。

イノベーション推進本部総括企画主幹は、学術領域や研究分野の壁を越えたこの取り組みについて「2機関が連携することによって、つくばにとって転機になる」と語る。

コンシエル活躍

イノベーション・エコシステムの構築の中心役割を担う、つくばIが始めたのが「つくばグローバル・イノベーションテクニカルコンシエール」だ。企業などがつくばの研究機関に技術相談する際

機関連携、低くなる垣根

「合わせ技」8件

15年度に8件の研究課題が採択された。数理工学系や医学・医療系の分野が中心で、3月10日には研究者らが筑波大東京キャンパスで成果報告会を開く。

筑波大学と産業技術総合研究所が互いの強みを生かし、資金面で協力しながら共同研究を促進する「合わせ技ファンด์」事業では、2014年度に9件、産総研の美濃輪智朗

携は加速している。機関に技術相談する際

2月初めにTGIは

2月初めにTGIは

開かれる。産総研、物材



TGIはTXつくば駅前「つくばサイエンス・イノベーションセンター」内に移転

機構、農研機構、筑波大から医療や体育などの分野の研究者が名を連ね、「健康長寿」をテーマに軽度認知障害(MCI)や藻類バイオマスなどに関する研究の技術発表を行う。

TGIの末広峰政事務局長は「起業家育成やマッチングなどのさまざまなイベントを開催し、つくば発イノベーションの創出を加速させたい」と決意を新たにしている。(おわり)

(茨城・大原翔が担当しました)

駅前窓口拠点

拠点を筑波大構内から移転。ミーティングサロンやセミナースペース(茨城つくば市)で

つくばを訪れる企業や投資家にとっての利便性を高めている。

このほか3月11日に企業や投資家、学生に向けたプロモーションイベントの第2弾が、常陽銀行つくばビル(茨城つくば市)で